

マイケル・ソマレ氏のご逝去を偲び

堀江 正夫（当協会 名誉顧問）

名実共にパプアニューギニアの建国の父であったマイケル・ソマレ氏は、去る2月26日84年の輝かしい生涯を完了され逝去された。洵に悲しみに堪えず、真に感慨無量である。皆様と御一緒に心から感謝と敬弔の誠をささげ、ご冥福をお祈り申し上げたい。

皆様それぞれに氏との思い出をお持ちと思うが、私が初めてお会いしたのは、昭和48年の遺骨収集の時であり、最後は平成27年旭日大綬章受賞のため来日された時である。この40年、何度お目にかかった事であろう。抱き合つての挨拶の後氏がまず口にされたのは、その時々で内容は違うが、建国当時の戦友会からの支援であり、その後は政府や、各種事業団体、民間融資個人等による幅広い支援に対する感謝の言葉であった。

紙数の関係上頭に残っている思い出の中で以下二つだけを申し上げる。

第一は、初めてお逢いした時、氏は独立（昭和50年）前の臨時政府の若き（38歳頃）首席大臣であった。「戦後30年で当時を良く知る国民も少なくなっており、どの程度協力できるか判らないが」と、暫し沈思後、自ら直接全国民に呼びかけ、懇切かつ強く積極的に協力することを指示されたのである。この遺骨収集は、戦友会を中心に、遺族会とJYMAが参加した国として初めての遺骨収集であり、私は嬉しさ有難さに涙が出るのを押さえることが出来なかった。

次は安倍総理にウエワクの国立慰霊碑に首相として初めてお詣り頂いた際、政治生活の大部を首相として勤め、当時東セピック州知事であったソマレ氏と直接会われ、首相として戦時中の住民の協力と戦後の遺骨収集に対する国及び関係住民の協力に対し、感謝の言葉を述べていただいたことである。

私もこの時総理を慰霊碑前でお迎えし、戦争中言語を絶する厳しい情勢の中、多くの住民が総てを投げうって協力してくれた実態と、戦後の遺骨収集に対する協力、彼等の日

本人に対する信頼感等を報告したが、安倍総理のこのウエワク訪問を、東部ニューギニアの作戦に参加した全将兵、わけても13万名の戦死者ご遺族がどんなに喜び感謝したか、いうべき言葉もない。

総理を迎えたソマレ氏そして住民の歓迎振りについては、その時ご報告したが、正にソマレ氏及び現在のパプアニューギニア政府と国民の対日感情を示すものであり、真に感無量である。

安倍総理の訪問翌年の、ソマレ氏に対する旭日大綬章贈呈は、ソマレ氏及び国民に対する日本国としての感謝の心を伝えたものと、感無量である。

皆さん、今後共この心を胸に、パプアニューギニアに対し、各々の立場で、その関係を深くして行こうではありませんか。

最後に重ねてソマレ氏のご冥福をお祈りしましょう。

合掌



安倍総理ご夫妻のウエワク訪問時 ソマレ氏と



ソマレ氏歓迎会



ソマレ氏夫妻



柴田チヨ様とソマレ氏
(故柴田幸雄氏(キャプテン柴田)令ご婦人)



堀江氏と山下元協会会長
(ソマレ氏歓迎会にて)

パプアニューギニアとの不思議な出会い

橋（岩崎） 廣治（当協会 会長）

一、世界最初の農業が行われた地域

協会の会員の方々は、パプアニューギニアとそれぞれ特別な関係を持っているものと思います。

私の場合は国より命令されて赴任したのですが、それだけの関係ではありません。非常に特異なものです。もう今から五十年以上も前のことになります。中学校時代か高校時代か確かではありませんが、気分的には中学時代です。最初の東京オリンピックの頃でした。

地理の授業の時に私は授業に関係なく世界地図の小さな写真を見つめていました。

その写真は、特別なものとは思えず、少し小高くなっている野原を撮ったもののように思えました。

ニューギニア高地の世界最初の農業が行われた地域と説明があったと思います。インドネシア側ではありませんでした。東部ニューギニアです。まだパプアニューギニアは独立していません。オーストラリアの信託統治時代だったと思いますが、未開地域として知られていました。そこが、世界最初の農業が行われた地域というのは全く意外でした。最も進んでいた地域が最も遅れた地域になったのであろうか、と考えました。

世界の不思議の一つではないか、将来いずれの日にかこの現場に行ってみたいと強く思いました。

真実は一体何なのだろうか。

世界最初の農業が行われた地域というのが何かの間違いであれば、非常に分かり安いとも思いました。

しかし、その後世界遺産に登録されたという話も聞き、これは本当の事のように思いました。その後パプアニューギニアの事を聞くと必ずこの事を思い出していました。

赴任してから何度かマウントハーゲンを訪問する機会があり、世界遺産の現場は空港からそう遠くは無いというので、行ってみようと思ったのですが、現地の人説明では「保存の為に土をかぶせており何も無い」とのことなので行きませんでした。

私が中学生の時に見た写真のイメージそのものでした。

それでも最後のマウントハーゲン出張の時に現場まで行きました。何も無く現場に入れないように柵もしてありました。

私は遠くから見てまた周りの雰囲気を感じただけなのですが、たしかに東京とか大都会に比べればニューギニア高地のここは未開で遅れているのかもしれませんが、これはこれで良いのではないかと、思いました。何故かと言えば静かな平和な空気が心地よかったのです。

世界遺産に登録されれば観光の目玉として宣伝しても良いのに、本当かどうかはともかく「保存の為に土をかぶせており何も無い」というのも、私は、「パプアニューギニア的で好きだな」と思った次第です。

二、日本沈没、東部ニューギニアへ三百万の日本人が移住

これは五十年間にわたり私が誤解していたことです。

日本沈没に際し東部ニューギニアは三百万の日本人を受け入れてくれると思い込んでいました。

本当にそう思っていたのですが、退官後に小説「日本沈没」（小松左京、小学館文庫）を再読し、映画「日本沈没」を三回見ましたが、そのような記述、発言は何処にもありませんでした。

日本沈没の初版は1973年3月です。パプアニューギニ

アの独立（1975年9月）以前の事でした。

1973年というのは皆様にとっても、特別な年かもしれませんが、私にとっては外務省に入って2年目、インドネシアに留学した年でした。まさか、日本が沈没するとは夢にも思っていませんでしたが、「万が一」そうなった場合は東部ニューギニアは三百万の日本人を受け入れてくれる。有り難いことだと思っていたのです。そんなことはこの小説のどこにも書いてありませんが、読んでいただければ分かりますが、東部ニューギニアが結構日本人を受け入れてくれるように取れます（私の身勝手な思い込みか）。

そのような事実はないのですが、小説では東イリアン（東部ニューギニア）は日本が国連から信託統治されているとされています。

戦前ラバウルに居たらしい大臣が登場したり、「住民十数万の北東ニューギニアに・・・千万以上日本人がなだれ込んだら・・・」という記述があったりします。

この小説ではオーストラリアも多く日本人の受け入れを検討してくれています。最終的には五百万とか。もしそうならば小さな日本を造れるなどと思ったりしました。いずれにしても、私は、ポート・モレスビーにいる間、小説の話とは言え、「日本沈没に際し東部ニューギニアは三百万の日本人を受け入れてくれる」と思っていましたから、仮想ではありますが、そうなったらどうなっただろうと考えたりしていました。この国は本当に未来の国で国づくりはやりがいがある、三百万の日本人がいたら凄い国を作ることが出来るのではないかと、思いました。

このように約五十年間に渡り、日本沈没の時にはパプアニューギニアへ三百万の日本人が移住と思いこんでいましたが、それが何故なのか分かりません。しかし誤解していても悪い気は致しません。

御存知の通り、パプアニューギニアは南太平洋の島嶼国の中で国土、人口ともに最大の国で、我が国とは友好的な関係にあります。

国際場裡においては常に我が国を支持しています。政治経済安全保障の面でも、我が国にとって重要な国であることは間違いありません。

しかし、どうもそれだけではありません。島々を代表するラバウル、ニューギニア高地のマウントハーゲン、ゴロカ、そこに残る大自然と純粋な人々の存在、そしてこの土地の持つ特別な雰囲気は何物にも代えがたいものです。

水木しげる先生があれだけ夢中になるのにはそれなりの理由があるのだろう、と思います。

猛威を振るっているコロナ禍も、五月に入り日本でもワクチン接種が始まり、いよいよ終息の段階に入っているものと思われまふ。

コロナでの日本沈没は笑い話にもなりません。

早い時期のコロナ禍終息を心から期待しております。



現在のフック初期農業遺跡（世界遺産）

在パプアニューギニア日本大使館

PNG における新型コロナウイルス感染症の現状と日本の支援

PNG における新型コロナウイルス感染者数が特に 3 月以降急増しています。昨年 11 月には約 600 人、本年 2 月末に約 1000 人だった累計感染者数は、3 月の一か月だけで約 4000 人増加、4 月の 3 週間だけで約 5000 人増加しています。全国 22 州の全ての地域で感染が確認され、特にポートモレスビーでは既存の医療機関では陽性患者を収容しきれず、体育館施設に隔離病棟を臨時開設していますが、それでも病床数は不足している上に、医療従事者の集団感染も大きな問題となっています。

3 月の急激な感染拡大は隣国豪州にも影響を与え、状況を危惧した豪政府は急遽自国用に手配していた 8000 回分のワクチンを PNG に供与し、ポートモレスビー市内の医療従事者等への接種が 4 月から始まりました。PNG 政府は、WHO や UNICEF と協力してワクチン接種計画を策定し、年末までに人口約 900 万人の 20% に当たる医療従事者、空港や港湾、軍や警察の関係者、高齢者等にワクチン接種を行うことを目標にしています。先日は COVAX ファシリティ（注：Gavi ワクチンアライアンス、CEPI（感染症流行対策イノベーション連合）及び WHO が主導して、ドナー諸国・機関からの拠出金により途上国へワクチン供給する枠組み）の下で調達されたワクチン約 13 万回分がポートモレスビーに到着し、国際社会が一丸となって PNG の状況改善に取り組んでいるところです。

昨年来、我が国としても PNG 政府からの要請に応じて様々な支援を実施しています。

先ず、パンデミック初期の昨年 3 月、緊急対応策として、PNG の UNICEF 事務所を通じて、診療用テント、PPE（マスクや医療用ガウン等）、酸素発生器の調達、COVID-19 予防啓発ポスターの作成・配布を行うために約 1.2 億円を拠出。これにより、UNICEF は、翌 4 月に他のドナー国・機関に先駆

けて真っ先に PNG に PPE 等を提供できました。

また、同年 6 月、新型コロナウイルス等感染症の予防・治療に当たる PNG の保健関係部局や医療機関を支援するため、CT スキャンや X 線検査機器等の保健・医療機材供与のための無償資金協力 9 億円を実施。同協力により調達された機材の一部として心電計や超音波画像診断装置等が、本年 1 月にポートモレスビーに到着し、ウォン保健大臣やポートモレスビー総合病院院長らが列席の下、しっかりとソーシャル・ディスタンスを確保しながら供与式が行われました。

本年 1 月には、令和 2 年度補正予算において感染拡大防止策の一環としてのアジア・大洋州向け予算が決定され、PNG に対しては、UNICEF、WHO、FAO、UN-WOMEN の 4 国際機関を通じて総額約 10 億円の支援を行うことが決定。学校における衛生的な水の供給、児童への衛生的行動の啓発、地域コミュニティに根差した感染防止能力の向上、農業生産活動における適切なコロナ対策に関する農民への普及活動、市場で働く女性を通じたコロナ感染予防と生計向上支援など、それぞれの機関の経験やネットワークを活かした支援が展開される予定です。

さらに、3 月には、PNG の UNICEF 事務所を通じて、コロナのワクチン配布に係るコールドチェーン機材の調達・整備、同機材を使用管理するヘルスワーカーへの研修等のための緊急無償支援として 3 億円が拠出されました。上述の、4 月から開始された PNG のワクチン接種の促進に大いに貢献することを期待しています。



COVAX 到着

故ソマレ元首相及びマウエ元駐日大使への追悼

日本にとって最も近いパプアニューギニア人であった二人の大切な友人が相次いで逝去されました。パプアニューギニア建国の父であるソマレ元首相と日本・PNG 協会の名誉顧問を務めておられたマウエ元駐日大使のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご家族の皆様にご改めて深い追悼の意を表させていただきます。

昨年 2 月に公邸で催した天皇誕生日レセプションの折に、ソマレ元首相が杖を突きながらも笑顔を湛えておいでになり、闊達な口調で日本と PNG の関係の大切さについて大変心温まるスピーチをされたお姿が今も鮮明に思い起こされます。

ソマレ元首相が日本と PNG の関係を築いた大黒柱であったことは、言うまでもありません。先の大戦中に日本軍占領下の村で少年期を過ごし、当時日本軍が開いた学校で日本語を始めとして初めて教育らしい教育を受けた体験から日本への親しみを覚えたとのお話はあまりにも有名です。そして、その時日本語を教わった柴田中尉への思いは、初代首相として PNG の独立を達成した後も絶えることなく、1985 年に念願の再会を東京で果たしたエピソードはまさにソマレ元首相が戦後日本にとって無二の友人であったことの象徴と言えます。

この再会に先立って、同年、日本の首相として初めて PNG を訪問した中曽根首相と安倍晋太郎外相（当時）を歓待したのも当時のソマレ首相で、日本との外交関係を確固なものとしたのでした。当時安倍外相のご子息で秘書を務めていた安倍晋三氏が後に首相となり、2014 年に PNG を訪問し、日本の首相と

して初めてソマレ元首相の故郷である東セピック州ウェワクを訪問し、先の大戦で戦没された方々を慰霊されました。この時もソマレ元首相は当時の安倍首相を盛大に歓待されました。こうして日本と PNG の関係の屋台骨の役割を果たされていたソマレ元首相のご逝去は、まさに日本にとってかけがえのない人物を失ったものと深く悼み入りますとともに、一つの時代の区切りを迎えたものと感慨深いものがあります。

ソマレ元首相が築き上げた日本と PNG との関係の一翼を担っていたのが、マウエ元駐日大使です。マウエ元駐日大使の急死の知らせはあまりにも突然で、ただ驚くばかりでした。同大使におかれましては、駐日大使の大任を終えられた後も、ポートモレスビーでロジック経営に携わり日本からの訪問客をおもてなしして草の根レベルでの交流に精力的に取り組んでおられました。昨年から続くコロナ禍の中で、すっかり途絶えてしまった日本の人々の往来の再開を最も待ち望んでおられたのはマウエ元駐日大使ではなかったかと思いますが、心が痛むばかりです。

今日の日本と PNG の友好関係の礎を築かれたこのお二人は、その功績を称えられて日本政府からソマレ元首相は最高勲章である旭日大綬章を、マウエ元駐日大使は旭日重光章を叙勲されました。お二人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



中原大使(左)と故ソマレ元首相(右)

ヒサヤス イタル
久安 至 (株式会社 郡産業 総務部長)

ごくらくちょう読者の皆様、長らくご無沙汰しております。前回投稿してより早10年経過してしまいました。当時施工していた、マーカム橋改修工事とヨンキ発電所の建築工事、2011年10月に完工し、今現在では現地の人々のお役に立っている事と思います。

パプアニューギニアへ出向していた社員たちは、この10年の間インド(施工管理)・スリランカ(施工管理)・コートジボワール(アースドリル場所打ち杭工事)等海外に赴き、いろいろな工事に携わってまいりました。さらに、2019年4月よりマダガスカルにおいて、アロチャ湖の灌漑施設の工事(技術指導)を一年あまり施工してまいりましたが、今般のコロナウィルスの蔓延により、マダガスカルにおいても非常事態となり、2020年6月、工事を中断せざるを得ず、社員は名残惜しみながら帰国せざるを得ませんでした。非常に残念でなりません。この工事、近々再開のめどが立ってきたようで、本年の春より、準備に係る予定です。

まだまだ、コロナワクチンの接種もままならぬようで、不安な日々が続いておりますが、精力的に準備を進めてまいりたいと思っています。

前回投稿した際、北海道での深地層研究施設の話を書きましたが、あれから第二期工事が地下350m地点で、一度掘削が中断していましたが、その間いろいろな実験が行われていたようです。本年4月のニュースで第三期及び第四期中長期目標が発表されました。これによると地下500m

迄延伸する計画になったようです。前回まで工事に携わっているだけに、将来に期待が持てるニュースとなりました。

日本国内での工事では、建築基礎工事・土木基礎工事・地中障害撤去工事等行っています。皆さんがよく目にするマンションやオフィスビル・鉄道の高架橋・高速道路や河川に架かる橋梁の基礎工事を行っています。全国各地において工事を行っていますので、Kooriのロゴを見ているかもしれませんね。建築工事の現場では塀に囲まれているため、見ることは難しいと思いますが、土木工事の現場では重機械が直接見えるので、一度立ち止まって見てください。郡産業の機械が仕事をしているかもしれません。

相当大きな機械が前後左右に動いています。100トン吊れるクレーン、150トン吊れるクレーン等、重機が大型化していますので、安全対策に万全を期しないと、大事故につながってしまう事もあります。今では無線機等を使用し、クレーンオペレーターと廻りで仕事をしている作業員が常に意思疎通をしながら安全に仕事を進めるようになりました。基礎工事をする機械も大型化し、一個体が重量35トン～58トンもある基礎機械を用いていますのであらゆる安全対策を施し、慎重に作業を進めていかなければならないと思っています。

これからも国内工事に、海外工事に、忙しい毎日が続くと思いますが、安全・安心をモットーにゆっくりと進んでいきたいと思っています。



コートジボワール



マダガスカル



建築基礎工事



大口径建築基礎工事

事務局からのお知らせ

コロナ禍で皆様我慢の日々を過ごされていることと存じます。

このような中、本年度も引き続き協会会員のご継続ありがとうございます。本来ならばTOKTOK会、総会後の懇親会、其の他企画事業で皆様とお会いして御礼もお伝

えできるのですが、昨年度同様本年度も開催が難しい状況です。「メルマガ」と本「ごくらくちょう」にて皆様に日本一PNG関係についてできるだけ多くの情報をご案内したいと考えております。

6月に予定しておりました定例総会ですが、こちらも昨年同様書面評決にて皆様にご参加頂く事となります。御協力をお願いいたします。

協会の事業としてはTOKTOK会が開催できませんので、POM側での奨学生への支援、新PNG大使のご着任時の歓迎会開催、PNG国防軍への演奏服寄贈、そして協会事務局へのお問合せや調査依頼などにきちんと対応していきたいと考えております。

本年度も皆様のお支えあつての協会となります。引き続きよろしく願いいたします。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っています。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：25社 ◆ 個人会員：118名 (2021年4月30日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会
事務局

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン(株)内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生・PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ